

「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 尾埜 行男

『日時計に魅せられて』

日時計に興味を持ち、調査・収集・制作などを始めて約30年になります。

1992年に新宿のスペース・ゼロで、初めての日時計展を開催し、旗揚げとしました。

それからは、毎年の新制作展や春季展には様々な形式や素材の日時計を出品しております。



日時計展 新宿スペース・ゼロ にて

1995年頃、仕事の関係で高松への出張があり、その帰りに奈良に立ち寄った際にたまたま奈良の観光パンフレットで「時の資料館」(現在は休館中)を見つけました。早速行ってみると、暦と時計、そして様々な小型の日時計が展示されていました。

そこは個人の資料室といった所で、生憎ご主人が不在でしたが、古いヨーロッパの日時計、江戸時代の日本の日時計、現代の物などが陳列されておりとても興奮しながら拝見しました。



時の資料館 日時計展示

それから半年後、そのご主人から東京出張との連絡があり、渋谷（東急プラネタリウム）でお会いし日時計談義となりました。

数年後、日時計を研究されているドイツの方が来日され、岐阜の美並村（現在は郡上市）の日本まん真ん中センター（建物全体が日時計）でお会いし、情報交換をしました。この来訪がきっかけとなって、遅ればせながら欧米諸国に続き 2000 年に日本日時計の会が発足しました。



日本まん真ん中センター（旧美並村）

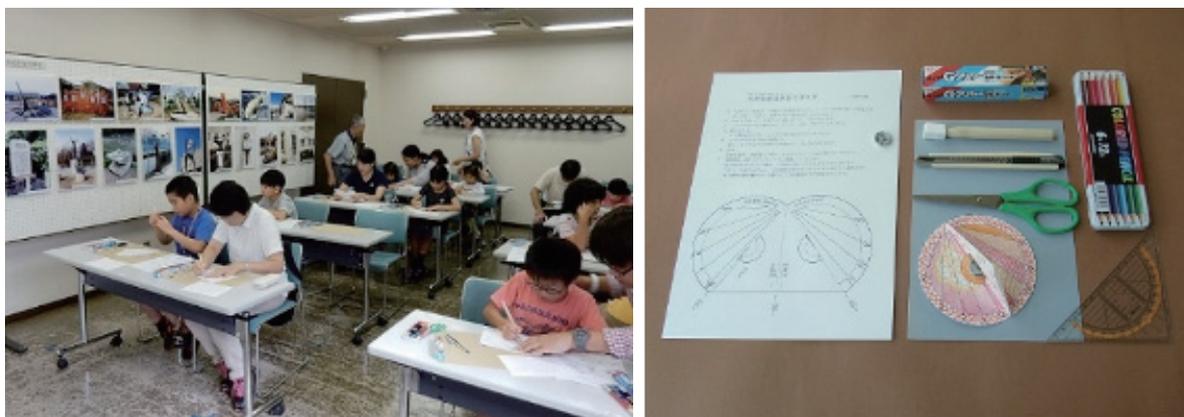
2004年4月、イギリスのオクスフォードで世界15か国150余名参加の国際日時計会議が開催され、日本日時計の会のメンバー4人も参加し、日本の日時計事情を発表してきました。3泊4日の会議は研究発表の他、近郊の日時計訪問・博物館日時計コレクション見学など充実したものでした。そして参加各国の日時計協会の方々との交流が始まりました。



国際日時計会議 イギリス・オクスフォード

現在はインターネットにより情報交換・コレクション収集が非常に容易になりました。今までは国内・国外の骨董市やアンティークショップで見つけるしかなかったのですが、オークションサイトの充実により日時計のコレクションが急速に進みました。

私が住んでいる杉並区では毎年区民対象に“すぎなみサイエンスフェスタ”が開催されます。25ほどの科学に関するワークショップやイベントが一堂に会し、コロナ禍でオンライン開催の時期を除き2000人を超す参加者が楽しんでおります。今年は第8回として1月に開催されました。私も“日時計を作ろう！”というワークショップで参加しております。



“日時計を作ろう！”ワークショップ

日時計というかなりニッチな世界を自身のテーマとして選んで研究・制作してまいりましたが、これを通して多くの方々と交流し、様々な事を学ばせていただきました。毎年の新制作展出品に頭を悩ませるのもとても楽しく、今度はどんな提案をしようかといつも考えております。なるべく違うものを！

<略歴等>

- 1946年 栃木県佐野市生まれ
- 1969年 日本大学生産工学部建築工学科卒業
- 1973年 東京造形大学助手(～2012年教授退職)
- 1976年 第40回新制作展「分枝」、初出品・初入選、
第43回展、第45回展、新作家賞
- 1982年 第46回新制作展 会員推挙
- 1994年 第9回国民文化祭三重、審査員奨励賞
- 2000年 第10回 AACA(日本建築美術工芸協会)
特別賞(共作)
- 2002年 第7回国際日時計コンテスト
プロ部門グランプリ受賞
(LE OMBRE DEL TEMPO, ITALY)

<展示会等>

- 1992年 日時計展 新宿スペースゼロ
- 2008年 時の記念日 N I C T 情報通信研究機構
- 2011年 日時計に魅せられて
退職記念展 東京造形大学美術館
- 2012年 世界の日時計コレクション展
佐野市市民ギャラリー
- 2013年 日時計の魅力展 杉並区西荻図書館
- 2014年 太陽にいどむ 相模原市立博物館
- 2014年 手のひらの太陽 I N A X ライブミュージアム
- 2016年 時間をめぐる、めぐる時間の展覧会
三軒茶屋キャロットタワー

<日時計設置>

国立天文台三鷹、国立天文台野辺山、明石市天文科学館、
核融合科学研究所、東京国際大学、宮城大学、足利大学、
川口高等学校、与野高等学校、杉並学院中学高等学校、
井荻中学校、桃井第一小学校、桃井第四小学校、
見沼自然公園、鳥栖市蔵上公園、佐野市こどもの国、
シグマ建設、日本まん真ん中センター、
ハルズ・キッチン、ふく楽舎、喫茶穂高
その他、個人宅など。

<所属>

日本日時計の会会員
英国日時計協会会員
新制作協会会員